

会 議 録

1 会議名

平成29年度第9回直江津区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

【自主的審議事項】

直江津まちづくり構想について（公開）

3 開催日時

平成29年9月26日（火）午後6時00分から午後7時16分

4 開催場所

上越市レインボーセンター 多目的ホール

5 傍聴人の数

1人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

- ・委員： 青山恭造（会長）、竹内明美（副会長）、増田和昭（副会長）、
青山義一、泉 秀夫、磯田一裕、今川芳夫、河野健一、小林克美、
田中美佳、田村利男、田村雅春、中澤武志（欠席5名）
- ・事務局： 北部まちづくりセンター：滝澤センター長、荒木係長、千田主事

8 発言の内容

【滝澤センター長】

- ・会議の開会を宣言
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

【青山恭造会長】

- ・挨拶
- ・会議録の確認：泉委員、磯田委員に依頼

議題【自主的審議事項】直江津まちづくり構想について、事務局へ説明を求める。

【荒木係長】

昨年度「直江津のまちづくりを話し合う会」を3回実施し、参加された方々の個人意見を意見整理表として委員に配布したが、もう少し協議しやすい形に整理したので、意見交換会の振り返りも含めて、資料No.1のとおり説明する。

・資料No.1 『直江津のまちづくりを話し合う会』開催結果について（要旨）、

資料No.1 添付資料「直江津のまちづくりを話し合う会 意見整理」に基づき説明

【青山恭造会長】

「直江津のまちづくりを話し合う会」で住民の皆様から出していただいた意見や7月7日に視察研修を実施した際、視察先の商工会議所や団体の方々からお聞きした話を通して直江津区の観光振興による活性化はどうあるべきかについて、参考になる部分があったかと思う。それを今後、どのように活かしていくか。いろいろなやり方があるかと思うが、皆さんから意見を聞きながら進めていきたいと思っている。

【泉委員】

資料No.1に「延べ参加者」の人数が記載されているが、年齢や男女比のデータはあるか。事務局で整理した意見が区全体の意見なのか、ある程度特定された人の意見なのかということも後々影響してくると思うので、あとで良いので提示していただきたい。

【荒木係長】

承知した。

【田村雅春委員】

平成27年度に実施した「新水族博物館を活用した直江津のまちづくりを話し合う会」の意見集約の時は、「地域住民が行うこと」、「市と協働で行うこと」等に分類し、協議していたかと思うが、今回は分類しないで良いのか。

【泉委員】

分類してしまうと発想が進まないから、まずは協議して、その中で結果として行政がやること、地域住民がやることで分類したほうが良いのではないか。

【田村雅春委員】

では、平成27年度に実施した話し合う会はどう整理するのか。さらに、短・中・長期でも分類したかと思うが、それと平成28年度に実施した話し合う会で出た意見と近寄った意見もある。前回と今回の意見をどのように組み合わせてやるのかが分からなかったので質問させていただいた。

【青山恭造会長】

今回、意見をたくさん出していただいたが、一つひとつを見極めていくためにも良い進め方がないかと考えている。

【荒木係長】

先ほど田村雅春委員が言われたように、平成27年度は、「新水族博物館を活用した直江津のまちづくりを話し合う会」を開催し、意見の内容は、基本的に新水族博物館の活用に関しての意見に限定されていた。結果的には、意見の中から優先すべき課題を話し合い、市で取り組むべき課題についてを、「意見書」として市に提出した。

平成28年度は、新水族博物館の活用に限定せず、直江津区全体のまちづくりについて話し合いをしてきたので、改めて、整理の仕方を考える必要があると思っている。

【青山恭造会長】

平成27年度に実施した意見交換会で出た意見の中では、直江津中等教育学校前のS字カーブを直線化にすることや、海浜公園のトイレの整備等、現在実施している事業もある。

【泉委員】

田村雅春委員が言いたいのは、平成27年度の意見を、平成28年度の意見に活かす方法があれば良いのではないかとということだと思う。

【青山恭造会長】

そこは分かっているが、それをまとめるためには、どのようにしたら良いのかということである。

【青山義一委員】

2年前の「新水族博物館を活用した直江津のまちづくりを話し合う会」の際、私は委員ではなかったので分からないが、平成28年度にどのくらい活かされているのか。

本日配布された「意見整理表」を今後どのように活かしていくのか、簡単には活かせないと思う。昨年から思っていたが、時間が許せば、昨年来ていただいた方々と再度会議を開き、意見を絞り込めないかと考えている。そうすれば、ある程度の問題提起ができるのではないかと。

【田村雅春委員】

私の記憶だと、住民の参加者からは、意見を出すだけ出していただいて、あとは、地域協議会に委ねるといったことだったかと思う。それがあから、今回、事務局でまとめたのだと思う。出された意見をどのように扱っていくかは、地域協議会としての課題で

ある。それに対しての意見を聞きたいということである。

【中澤委員】

まず、話し合う会で出た意見をまとめていただいてありがたいと思っている。

平成27年度に出していただいた意見を基に、平成28年度の意見を絞り込むという作業をしないといけないと思っている。分科会でも良いが、3グループくらいに分かれて絞り込み、その次に、絞り込んだ課題について全体で協議していくという方法ではどうか。

【泉委員】

確かに絞り込む必要があると思っている。ただ、大抵の意見が「地域振興」である。ほかに「安全安心」等もあるが、捉え方によっては、これも地域振興なのではないか。これだけ幅広い意見が出てくると絞り込むのは難しいかもしれないので、絞り込みやすいものからはじめ、そこから広げ、絞り込んではどうか。

全体協議ではまとめにくいので、分科会で協議し、分科会の意見をたたき台として、全体協議をするという進め方にしてはどうかと考えている。

【青山恭造会長】

今出ている意見のほかに何かあるか。

【磯田委員】

事務局でまとめていただいた意見の取り扱い方は、中澤委員と泉委員の意見に賛成である。だが、自主的審議事項「直江津まちづくり構想」と言っているが、まとめた後に、地域協議会として何を問うのか、何を提示していくのか。アウトプットするためのイメージをして、こういう人たちに、こういう提言をしたいから、これを作る。あるいは、我々だけで作れるものなのか、行政の力を借りてまちづくり戦略みたいな方向へ持って行くやり方をしていく土台として作っていくのか。その辺の狙いがはっきりしていない。そこを話していかないと、どこを目指してまとめていくのかが分からない。出していただいた意見を整理するにも、どういうことまで考えて整理を付けていくのか。事業化まで話をしていくとすれば、誰が、どこで、どういう手続きでやっていくかということまで考えなくてはならない。

先ほどの短・中・長期という話も、結局一つの事業をずっと捉えて行った中での短期的な取組である。だが、長期の中でも落としてはいけないという意見はあると思う。それは、長いスパンの中で取り組んでいかないと動いていけないということもある。

【青山恭造会長】

そこで、どうしたら良いと思うか。

【磯田委員】

私は、やはり、「地域を元気にするために必要な提案事業」のように、行政に参加してもらい、直江津区としてのまちづくり戦略プランや、こういうものをベースにして直江津のグラウンドデザインの一つのたたき台の画を作って行ったほうが良いのではないかと。ただ、協議会内だけで話し合いをして作っていくのは難しいと思っている。

【青山恭造会長】

「直江津のまちづくりを話し合う会」において、地域協議会委員は、自分の意見はなるべく控えた中で、周りの意見を聴くというスタンスだったが、いただいた意見を参考に、課題解決に向けて進めていくためにはどういう方法があるのかという意見を皆さんに聞いている。意見をまとめるために磯田委員としてはどういう方法をとったら良いと思うのか。

【磯田委員】

資料では「大区分・中区分・小区分」と分かれている。今、この意見をどのように整理するかの話し合いをしていると思うが、例えば、駅前エリアだったら、どういうことを考えていくのか、水族館の周辺エリアだったらどういうことを考えていくのかというようにエリア別で考えていく。あるいは、五智だったら、自然・歴史ゾーンの中でどういうことをやっていくべきかを考えたりして、テーマや地域を絞って議論していくということをしていったらどうか。

【田村雅春委員】

地域協議会の役割としては、市民や行政、住民団体に対して提言するということが役割だと思っている。磯田委員は一緒になってやるということだと思うが、地域協議会は提言までで良いのではないかと。

【青山恭造会長】

田村雅春委員の意見に対してはどうか。

【青山義一委員】

基本的には提言するまでで良いと思っている。地域協議会は提言する組織であり、具体的に何かをするということは出来ないことになっている。

【泉委員】

私は磯田委員の意見に賛成である。ただ、扱い方が少し違うと考えているが、地域協議会で住民の皆さんの意見を反映して何かをやろうとしている。我々だけで議論をして何かをやろうというわけではなく、皆さんがどういうことを望んでいるのかということを知りたいという話の話し合いだったかと思う。いただいた意見はベースであり、一番基本的な部分である。皆さんが、「こういうまちでありたい」ということの話の話し合いであり、地域協議会としては、そういうデータが欲しかったから開催した会ではないのか。

【田村雅春委員】

私が言っているのは、まとめてから提言までが我々の仕事ではないかということである。

【泉委員】

それは分かる。ただ、「地域を元気にするために必要な提案事業」については我々も提案でき、実行できることはある。

【青山恭造会長】

まとめてもらった資料を基に提案していくには、どういうやり方が良いのかを地域協議会で考え、はっきりしていけないといけない。

【中澤委員】

提言するとか、その先まで考えるとか、今は、そこまで話し合いをしなくても良いのではないかと。まず、協議会内で共通認識を持たなくてはならない。そのために何をやるのかを考える。その次に、どのように実現しプランニングするかを協議するのであって、次の話はその時に考えれば良いのではないかと。

【小林委員】

住民団体と行政とを絡めていき、住民団体の方々に「地域を元気にするために必要な提案事業」として提案してもらえそうな仕組み作りを考えられないかと感じた。資料の意見整理表には非常に良い意見もあるが、これに縛られてしまうと範囲が広すぎて、どうやって集約して、どこに到着点を置けば良いのかが分からなくなってしまう。

【青山恭造会長】

それは分かるが、今回はこの資料を参考するという事なので、小林委員の意見を取り入れてしまうと、また話が広がってしまうのではないかと。

【中澤委員】

それは、委員も参画して話し合いをするので、新たな意見が出てきて良いのではないかと。

か。そこまで気にすることはない。

【滝澤センター長】

事務局でまとめた資料の意味合いを説明させていただくと、今回示した意見整理表は、3回の意見交換会で出た意見を全て記載させていただいた。区分は地域活動支援事業の採択方針の区分である。

事務局としては、自主的審議事項の参考として使っていただこうと資料No.1の添付資料のような表にさせていただいたが、意見交換会で出た意見を地域協議会でまとめる、という考え方は事務局としては持っておらず、委員の皆さんが直江津区でどういう自主審議をしていけば良いかという話し合いの参考としていただくために示させていただいたものである。

これらの意見は、参加者が思い付くまま、できるだけ多く付せんに記入し貼ったものであり、様々な意見がある。今まで委員の皆さんから自主的審議を進めてもらっており、担当課からの説明も受けたりと、委員の皆さんもいろいろな知識を持っている。参加者の意見をまとめて市へ提示するというのではなく、話し合う会で出た意見を踏まえながらどのように進めていったら良いのかということを経験協議会で話し合っていたらいい。進め方については、今は、資料のような分類で作っているが、また違った分類もあるかもしれないし、それをどのように考えていったら良いのかは皆さんで話し合っていたらいい。

【青山恭造会長】

視察研修へ行った際の感想を読むと、いろいろな住民団体と意見交換をしたほうが良いのではないかという意見もあった。そういうことをやりながら、地域住民の方が何を考えているのかを聴き、まとめていくのが地域協議会の役割だと思っているので、これが全てで、これで終わりというわけではない。

【磯田委員】

意見整理表については一つの意見であって、ほかにも課題があるはずである。それは各委員が掘り下げていき、提言していくことが必要だと思うが、整理表の取扱い方として、例えば、ここに書いてある内容で各委員が各委員の知見でこれは重要、これは掘り下げなければいけないとか、これは状況だけを言っているだけとか、そういうものの整理を付け、それぞれがピックアップして整理する。そして、全体協議するというほうが良いのではないか。全てを形にしようと思うと意味のないことをしなくてはいけなくな

るかもしれない。

【青山恭造会長】

先ほど泉委員から「最初から全体協議をしてしまうとまとめるのは大変」ということを言っていたが、それについてはどうか。

【磯田委員】

各委員が見れば重要度はある程度分かると思うので、分科会で話をするのはエリア別や直江津全体として話をしていくのか、議論の仕方はいろいろあると思う。

一度、各委員が全体をチェックして、もっと議論する必要があると思うものを提示し議論していけば良いのではないかと考えている。

【泉委員】

資料のグラフを見れば、皆さんが何を望んでいるかは明らかである。地域振興内の「まちの活性化」だけで121件。だが、活性化に向けてそのまま出してもらった意見を取り上げて良いのかどうなのか。活性化の分科会があって、このテーマについてしっかりと議論していただき、それをたたき台にして意見交換をするほうがまとまるような気がしている。

【増田副会長】

中区分されている「まちの活性化」で見ってしまうと全体像がつかめないのも、さらに細かな意見も出ているので、それを見ると活性化の中身について分かる。そういうふうな課題の捉え方と、「まちの活性化」で一番意見が多かったのは「水族博物館の活用」になっているが、今、直江津のまちにとって何が大事なのかと考えた時に、高齢者支援や空き家対策、買い物対策等、具体的に出てくると思う。具体的な意見をもっと出すためには、各委員が直江津のまちにとって何が課題なのかということを出していただき、その中で何個かに絞ってやり、分科会を作って、それについてもう少し深く掘り下げていくというやり方。そして、協議が進んでいったら全体協議の場で共通認識を持ちながら進めていくというやり方ではどうか。

優先順位については、「地域の皆さんの生活向上のために」という観点から考えると、自然に直江津のまちのためになることが出てくると思う。

【田村雅春委員】

私は正直絞れないと思っている。一つひとつの意見に込めた思い、「まちなかにスーパーがない」という意見も高齢者にとってはとても深刻な問題なので削りたくない、とい

うのが本音である。

【磯田委員】

スーパーがなくて困っている人たちは確実におり、ほかにも課題は多数あると思っ
ている。一つの課題を解決すれば、この問題に繋がっていくのではないかと
いうような整理の付け方が必要なのではないかと。

高齢者の交通弱者はどうしたら良いのかという中では、循環バスが出てきたり、ほか
の課題を解決するために意見表の中のアイデアと結び付けていったりすることを考えて
いけば良いのではないかと思っている。

【中澤委員】

まずは、3つくらいに分かれて話し合いをしたほうが良いのではないかと。絞るという
作業を通して話し合いをしていく中で、お互い啓発し合えることがあり、その中で浮か
び上がってくるものがあると思う。もちろん一つひとつの意見をきちんと確認すること
も大事だが、グループ毎に話し合いをすれば新たな課題も出てくるだろうし、個人で深
まることもあるかと思うので、まずは、そういう形を取ってみてはどうか。

【青山恭造会長】

中澤委員の意見に対して何かあるか。

【田村利男委員】

中澤委員の意見に賛成である。全体で協議していくことも大事だと思うが、まとめて
いく時は、グループに分かれて絞り込んでいくことが妥当だと考えている。

【青山恭造会長】

- ・ 中澤委員の意見のとおり進めることで委員から同意を得る
では、これから班に分けたいと思う。
— 班の分け方について話し合い —
- ・ 出席番号順で6名ずつに分かれ、各班に会長・副会長が1名ずつ入ることで決定

【滝澤センター長】

今後の進め方について確認だが、次回の協議会の際に分科会で話し合いをしていただ
き、最後に全体協議の中で報告していただくということによろしいか。

【青山恭造会長】

次回の分科会で話が終わるかは分からないが、途中経過を聞きながら密に進めていき
たいと思っっている。

【滝澤センター長】

確認だが、分科会で話し合っていた中身は分科会にお任せをし、基本的なルールはなしとしてよろしいか。

【青山恭造会長】

それをお願いしたい。

では次に「その他」について、事務局へ説明を求める。

【荒木係長】

- ・次回協議会の事務局案：10月17日（火）

【青山恭造会長】

- ・次回協議会：10月17日（火）午後6時から

次回の協議会で新水族博物館整備課が進捗状況も含めて報告に入る予定だが、今まで「上越市立水族博物館」で博物館の要素があり教育委員会が担当だったが、これからは横浜八景島が指定管理者になり、「博物館」なのか「観光振興」なのか、その辺の話もしていただきたい。

【増田副会長】

直江津区地域協議会の課題として担当課へ投げ掛けているのは、「所掌」、「収支」、「渋滞対策」である。その辺、順次説明していただき、私たちが納得できるような方向に持って行かないといけないと思っている。

【青山恭造会長】

- ・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課 北部まちづくりセンター

TEL：025-531-1337

E-mail：hokubu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。